

# くばざくら

## ミラノ・コルティナ2026冬季オリンピックから読み取る

2月22日まで開催されたミラノ・コルティナ 2026 冬季オリンピック。たくさんの感動と興奮で日本中が沸きました。今回の冬季オリンピックでは過去最多の24個（金5、銀7、銅12）のメダルを獲得しました。メダルの数は4年間の努力の積み重ねの結果としてわかりやすい「エビデンス」となっています。オリンピック期間中、毎日、各国メダルランキングというものが新聞やSNSで報じられており、否応なしにも目に留まってしまいます。当然、メダリストは世の中から注目を浴び、まるで「英雄」かのごとく報道番組で扱われます。

ただ、何か腑に落ちません。スポーツという競技を国毎の争いかのように捉えて、勝者と敗者を描く。こんな構図になっていると感じるのは私だけでしょうか？国と国の軋轢や威信をかけた争いを生んでしまっているのも現実です。できれば、もう少し社会全体の機運上昇や選手一人ひとりのウェルビーイング向上に繋がる世の中の流れになってほしいと思います。一個人がその競技に時間とお金を費やし、身体を極限まで鍛え込み大会に臨んでいるのは、もはや尊敬に値します。本当に素晴らしいことです。私個人的に申しますと、オリンピックに出場した選手全員が尊敬されるべきものであり、名誉あることだと社会が強く認識するべきだと思っています。

好ましくない例が、メダル偏重の流れです。銅メダルを獲った3位の選手と獲れなかった4位の選手との間にどうしても差別化が行われるのが風習です。右の表は、日本人選手のこの大会での4位入賞者6名です。皆さん、どのくらい名前を知っていますか？ぜひ覚えておいてください。今後の活躍に期待です。

令和5年に閣議決定された第4期教育振興基本計画において、2つのコンセプトが掲げられています。（文部科学省第4期教育振興基本計画より抜粋）

1つめが「持続可能な社会の創り手の育成」です。この「創る」は「新しいものを創る」というときに使われる漢字です。言うなれば、今日よりも明日、明日よりも明後日の未来を見据えて行動できる人材＝より高みを目指しチャレンジしている人材です。

2つめは「日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上」です。これは、身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念です。また、日本の社会・文化的背景を踏まえ、我が国においては、自己肯定感や自己実現などの獲得的な要素と、人とのつながりや利他性、社会貢献意識などの協調的な要素を調和的・一体的に育み、日本社会に根差した「調和と協調」に基づくウェルビーイングを教育を通じて向上させていくことが求められます。

すなわち、オリンピックで4位入賞であっても自己肯定感や自己実現のための大きな要素であって決して恥じることない結果であり、社会の「調和と協調」に大きく貢献しているのではないかと。

大活躍の日本人選手の姿を見て、将来のオリンピック候補の子ども達が「私もこうなりたい」「一人人として、日本の代表として活躍したい」そんなたくさんの声が聞こえてくる世の中を期待しています。そして、子ども達が大いに活躍できる社会が待ち受けていることを願っています。

忠類中学校長 出村 聖

2026 冬季オリンピック 日本人選手の主な4位入賞者

競技	選手名	備考
フィギュアスケート 女子シングル	千葉百音	合計217.88点。僅差で3位の中井亜美選手に及ばず4位
フリースタイルスキー 男子スキークロス	古野慧	日本勢初の決勝進出。3位と0.08秒差の歴史的4位
フリースタイルスキー 女子モーグル	富高日向子	3位のフランスの選手と同点（タイブレーク判定）での4位
フリースタイルスキー 男子デュアルモーグル	島川拓也	今季W杯の表彰台なしながら、快進撃を見せ4位入賞
スノーボード 男子ハーフパイプ	平野流佳	予選2位通過。決勝では91.00点で4位
スノーボード 女子ハーフパイプ	清水さら	16歳の若手ながら4位入賞

## 月間予定表

- 3/ 4 (水) 公立高校一般入試 (学力検査)
- 5 (木) 公立高校一般入試 (面接)
- 9 (月) 性教育講演会 同窓会入会式 (3年生)
- 10 (火) 生徒総会 R8 前期書記局認証式
- 11 (水) 3年生を送る会 PTA 運営委員会
- 12 (木) 卒業式前日準備
- 13 (金) 卒業証書授与式 管内私立高校合格発表

17 (火) 公立高校合格発表

19 (木) まくべつ教育の日

20 (金) 春分の日

24 (火) 修了式・離任式

25 (水) ~ 学年末休業日

27 (金) 小中合同PTA送別会

※R8年度 入学式・始業式は4/8 (水)



# 快挙！！ 全台完走！ 2/15 ナウマン全道そり大会（1年生）

今年で43回目の開催となる忠類ナウマン全道そり大会。忠類中学校は5年連続の参加。1年生の総合的な学習の時間の探究学習の一環として、3人1組で3チームが出場しました。1月には大会実行委員長の五十嵐さんを迎え、長い歴史と運営者としての熱い想いを1年生に伝えていただきました。地域を盛り上げるため、地域の子どもの思い出に残るイベントを作るためとして始まったそり大会。地域の方々の大会に対する想いを学ぶことができました。

そり制作には昨年経験した2年生のアドバイスや、たくさんの先生方の協力を得ながら、熱心に取り組み、個性あふれる3台が完成しました。当日は全台完走！（忠類中が参加して以来、初の快挙）しかも、3台ともかなりのスピードが出て、素晴らしい滑走でした。ゴール後、他の参加者たちがみなさんのそりの写真を撮ったり、どんな創りなのかを調べたりしているのがうれしかったですね。

五十嵐さんをはじめ、大会の準備、運営を担当する総合支所の皆様、そりの運搬をしてくださった加藤建設様、たくさんの賞品を提供してくださっている事業所の皆様、大変ありがとうございました。参加した1年生は充実した時間を過ごしたとともに、地域への想いを強くしたことでしょう。また、今回の経験が後輩たちに受け継がれていくことが楽しみです。



## 1/28 小中合同 PTA 研修会

年に一度のPTA研修会が中学校を会場に行われました。今回は弘前学院聖愛高等学校 野球部監督の原田一範氏を講師に、オンラインでの講演となりましたが、28名の参加がありました。

研修会は森PTA会長との対談形式で行われました。甲子園出場まで導いた部員たちへの指導や、自身の3人の娘さんの育児の経験から、子どもを伸ばすための大人の関わり方や具体的な声のかけ方についてお話しいただきました。

あたたかい津軽弁でお話される原田先生の言葉は、参加した保護者にとっても、教員にとっても参考になる話題が多く、大変有意義な研修会となりました。



## 2/3 新入生体験入学・入学説明会

今回は、理科・社会・英語を体験。中学校の先生の授業を受ける6年生の表情は、2ヶ月後に迫った中学校入学を楽しみにしているように見えました。

午後からの入学説明会では、新入生の保護者も見守る中、生徒会書記局が中学校生活や制服などを紹介し、野球部と卓球部は活動の紹介を行いました。

その様子を見ていた小学校の田村先生は、中学生の成長に大変驚いていました。

新入生が来るということは、1つ先輩になるということ。準備はできていますよね？



三宅先生の理科を体験



生徒会書記局による学校・制服紹介の様子

## 努力の足跡～大会結果報告～

〔スピードスケート〕

☆1/31～2/3 全国中学校体育大会スケート大会

1年 黒坂 宏斗 中学男子 3000m 21位

1年 長田 颯介 中学男子 1000m 27位

1年生にして全国出場！2種目目は2人とも

転倒してしまいましたが、良い経験を積んできました！

☆2/24 全十勝中体連新人戦スケート大会

1年 黒坂 宏斗 中学男子 1500m 4位  
1000m 5位

1年 島田 桃奈 中学女子 500m 8位  
1000m 12位

1年 長田 颯介 中学男子 500m 4位  
1000m 8位